

みんなの広場

南波多郷学館の子どもの呼びかけで安全運転！ 大きな声で、みんなに届くように

南波多郷学館4年生の児童12人が、市農協南波多支所管内の約600戸に設置されている農協放送設備を使って、町内へ交通安全の呼びかけを行いました。同校は『地域とともにある学校』を目指していて、児童生徒による社会貢献活動の一つとして実施。4年生の児童は「自分が言ったことだから、交通ルールを守っていきたい」と話しました。



↑ 10月1日、この取り組みについて感想を話してくれた同校4年生の児童

オリジナルフレーム切手『伊万里トンテントン2021』発行 切手を通して伊万里の魅力を発信

二里郵便局の鳥山努局長が中心となり企画されたオリジナルフレーム切手『伊万里トンテントン2021』が、日本郵便株式会社九州支社から発行されました。初めて販売した昨年は即完売で、今年は川落しの連続した絵柄を中心に構成。同社の助村伸二佐賀県本部長は、「市民の伝統を形にし、伊万里の盛り上げに貢献したい」と述べられました。



↑ 深浦弘信市長（右から3人目）にオリジナルフレーム切手を贈呈する助村本部長（同4人目）と日本郵便の皆さん

黒川小学校サンドアート遠足 砂のアートで思いを表現

イマリンビーチで黒川小学校のユニークな行事『サンドアート遠足』がありました。これは、小学校からイマリンビーチまで歩いて移動し、1～6年生が縦割りの班に分かれ、砂浜の砂でオブジェを制作する行事です。自然や未来への希望など、さまざまなテーマに沿って、みんなで作業を分担しながら協力して作品を作りました。



↑ 立体感を出したり、海で集めた貝殻を使って装飾したりと、協力し合う児童たち

税関による薬物乱用防止教室 薬物には手を出さないと自分に約束

若い頃から薬物の怖さを学んでもらおうと、国見中学校で薬物乱用防止教室がありました。伊万里税関支署職員による講義の後、DVDを使って、普通に暮らしている人が麻薬の運び屋になってしまった事例を紹介。麻薬探知犬のデモンストレーションでは、鋭い嗅覚で麻薬を嗅ぎ当てる探知犬の動きに、生徒たちは感心していました。



↑ 生徒たちが持つダミーの中から、麻薬を嗅ぎ当てる探知犬『ラリー号』

第 42 回市美術展

芸術の秋を満喫

市民図書館で、第 42 回市美術展がありました。これは、創作意欲あふれる作品の公募・展示と、広く美術鑑賞の機会を提供することで、市民の芸術文化の向上と発展を目指して開催しており、『写真・工芸』と『絵画』、『書』の3期に分けて作品を展示しました。訪れた市民は、「見応えのある作品ばかりで、見ていて楽しかった」と話しました。



前期の『写真・工芸の部』では、85点の作品を展示



↑市美術展のポスターに載っている作品『^{たけのこ}筍』と作者の犬山英雄さん

伊万里塾推進事業『啓蒙舎塾』

やって知った伊万里の美しさ

市外から移住した若い人の声をまちづくりに生かそうと、LIB COFFEE IMARIの森永一紀さんを講師に招き、伊万里コミュニティセンターで学習会がありました。地域の歴史や人物などを再発見し、それらを学び、まちづくりにつなげる学習と実践活動の一環で開催され、森永さんは「伊万里は魅力にあふれている」と話されました。



↑「きっかけは『人』。伊万里の人に魅力を感じている」と話された講師の森永さんと参加者

県内合同水難救助訓練

県内消防機関の連携を強化します

SAGA 2024 国民スポーツ大会のオープンウォータースイミング競技中、複数の行方不明者が発生したとの想定で、イマリンビーチで訓練がありました。訓練は、平成 17 年から水難救助を中心に実施され、この日は防災航空隊を含む県内6消防機関から 61 人が参加。緊迫した中、情報共有体制の確認や水・陸・空の連携による訓練が行われました。



防災ヘリコプター『かちどき』を擁する県防災航空隊も参加し、空から行方不明者を発見・救出する訓練



↑伊万里・有田消防本部の指揮者の下、情報を収集・共有しながら、現場において救助活動を行う消防署員

海図 150 年記念パネル展～伊万里の海図 今と昔～

伊万里の発展が見えてきます

明治4年に海洋調査から海図作製までの本格的な水路業務が開始してから、今年で 150 年を迎えたことを記念して、海図 150 年記念パネル展が、市民図書館でありました。伊万里海上保安署が開催し、江戸後期の測量家 伊能忠敬の測量を基に作成された『伊能図謄写図』などを展示。海図からは、当時の測量技術の正確さやこれまでの伊万里の発展が読み取れました。



↑大正初期からの伊万里港や伊万里湾の海図が展示される様子